

市民が団結した市政の実現を目指します

島田俊光新市長 就任



●就任のごあいさつ

先の串間市長選挙におきまして、市民の皆様をはじめ各方面からの温かい御支援と御厚情を賜り、第18代串間市長として市政の重責を担わせていただくこととなりました。

市政のかじ取りを担うこととなり、課せられた使命の大きさと重責を厳粛に受け止め、選挙戦で訴えてまいりました「市民が団結した市政の実現」のため、力強く取組を進めてまいりたいと考えているところであります。

私は、南那珂森林組合長時代をはじめ、宮崎県議会議員としての活動を通じて、串間市は「素晴らしい財産を生かし切れていない」と感じていました。

また、長引く景気低迷と少子・高齢化の急速な進展に伴い、地方創生の主役であるべき「市民」の皆様の活力が感じられないと常々考えておりました。

この地方創生が叫ばれている

今だからこそ、「市民が団結した市政」を実現させなければならぬと、強く思うところであります。

その実現のためには、行政と議会、そして市民の皆様が一体となった取組が必要であり、市民の視点に立った施策の展開が不可欠であります。

本市では都井岬の再開発をはじめ、道の駅を中心とした市街地活性化策など、多くのプロジェクトが動き始めておりますが、その中でも、本市の産業振興の鍵を握るのが、東九州自動車道の早期事業化・開通ではないかと考えます。

事業化はもうまもなくではないかと思いますが、これまで培った、国・国会議員・県との強いパイプを最大限活用して、開通後のストック効果を強く訴えながら、早期事業化を目指した取組を、官民一体となって力強く進めてまいりたいと考えております。

結びに、市民の皆様におかれましては、格段の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。就任の挨拶とさせていただきます。

●プロフィール

昭和21年9月3日生まれ(71歳)

経歴

- 昭和38年 県高等農研修所 卒業
- 昭和48年 串間市森林組合 入職
- 平成12年 串間市森林組合 組合長
- 平成14年 南那珂森林組合 組合長
- 平成18年 宮崎県森林組合連合会 代表理事会長
- 平成27年 宮崎県議会議員就任



平成28年度決算

串間市の財政健全化判断比率等を公表します

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」の規定によって、平成28年度決算に係る5つの比率を公表します。

平成28年度決算では、早期健全化基準・財政再生基準・経営健全化基準を下回っている状況です。

①実質赤字比率

一般会計などの実質的な赤字額が、標準的な収入に対してどのくらいの割合になるのかを示します。

②連結実質赤字比率

全会計の実質的な赤字額が、標準的な収入に対してどのくらいの割合になるのかを示します。

③実質公債費比率

一般会計などの借入金の返済額が、標準的な収入に対してどのくらいの割合になるのかを示します。

④将来負担比率

一般会計などが抱える実質的な負債の残高が、標準的な収入に対してどのくらいの割合になるのかを示します。

⑤資金不足比率

各公営企業会計の資金不足額が、事業の規模に対してどのくらいの割合になるのかを示します。

【資金不足比率】

特別会計の名称	資金不足比率		経営健全化基準
	28年度	27年度	
串間市水道事業会計	—	—	20.0%
串間市民病院事業会計	9.4%	—	20.0%
串間市簡易水道特別会計	—	—	20.0%
串間市農業集落排水事業特別会計	—	—	20.0%
串間市公共下水道事業特別会計	—	—	20.0%
串間市漁業集落排水事業特別会計	—	—	20.0%

※各会計の資金不足比率の「—」は、資金不足額がないことを示しています。

【健全化判断比率】

比率の名称	28年度	参考(27年度)	早期健全化基準	財政再生基準
連結実質赤字比率	—	—	19.13%	30.00%
実質公債費比率	4.9%	5.4%	25.0%	35.0%
将来負担比率	35.2%	24.3%	350.0%	

※「実質赤字比率」と「連結実質赤字比率」の「—」は、実質赤字額および連結実質赤字額がないことを示しています。

問 / 財務課財政係 ☎内線323・324

東の都で故郷を語る

「在京串間会」半世紀の節目

在京串間会(木島博会長)は、首都圏近郊に在住する本市出身者や本市に縁のある方向士の親睦を図り、郷土串間の発展に貢献することを目的とし、昭和42年に発足しました。

それから半世紀。在京串間会の50回目の総会が9月30日に、東京都で開かれ、約250人が出席しました。

会には、くしまPR大使で歌手のいであやかさん、ビーチバレーの坂口佳穂さんのほか、木島会長と交流のある横綱・日馬富士関と伊勢ヶ浜親方がサプライズゲストとして登場し、会場を沸かせていました。

出席者は、杯を酌み交わしながら、近況や故郷のことを語り合い親交を深めていました。



問 / 総務課秘書広報係 ☎内線301